

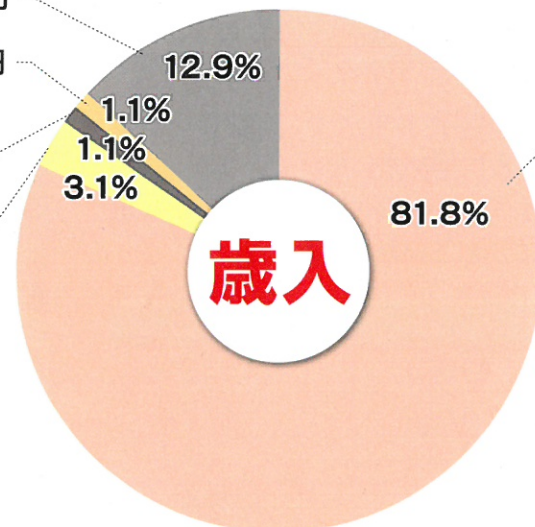
平成28年度 日本赤十字社茨城県支部 決算報告

前年度繰越金 55,465,278円

繰入金収入 4,694,064円

委託金及び交付金収入
4,979,077円

資産収入及び雑収入
13,265,124円



活動資金収入
(皆さまからのご寄付)
352,035,755円

歳入 430,439,298円

歳出 390,911,915円

翌年度繰越額 39,527,383円

管理業務のために

60,348,952円

国際支援活動のために

4,015,474円

青少年赤十字・ボランティア
活動のために

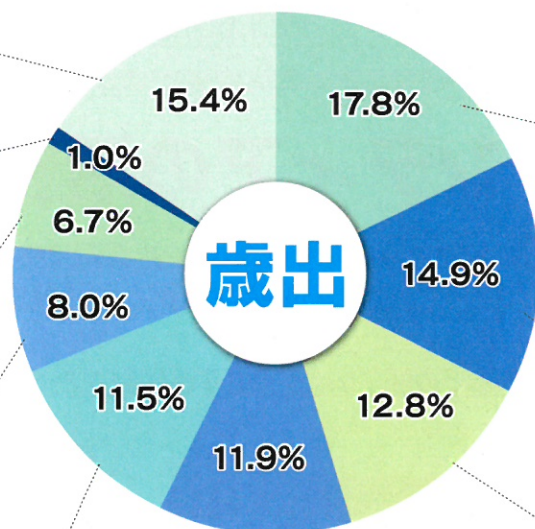
26,242,090円

健康・安全のための知識と
技術普及のために

31,154,993円

赤十字思想の普及、
会員増強のために

44,981,817円



災害救護活動と救護体制強化、
救護看護師の育成のために
69,625,010円

市町村の赤十字活動の
ために
58,026,115円

全国的な赤十字活動の
ために
49,806,002円

施設の維持管理のために
46,711,462円

日本赤十字社茨城県支部への活動資金にご協力をお願いします。

日本赤十字社の活動は、国や特定の団体からの助成ではなく、すべて皆さまからお寄せいただく活動資金によって支えられております。また、ご協力いただいた場合には、税制上の優遇措置があります。

ご協力方法

- お近くの市町村社会福祉課(赤十字窓口)や当支部へのご持参
- コンビニエンスストアの電子端末から
- 銀行振り込み(常陽銀行・ゆうちょ銀行)
- 遺贈・相続財産の寄付
- 口座振替、クレジットカード

赤十字サポーター — 私たちは日本赤十字社を応援しています —

- 株式会社 茨城県社会福祉事業協力会
- 茨城県信用組合
- 茨城県遊技業防犯協力会
- 公益財団法人 茨城新聞文化福祉事業団
- 株式会社 イーエス商会
- 株式会社 丸越
- リスカ株式会社
- 株式会社 若松鉄工建設

※一定額以上の活動資金協力があつた法人様を50音順に掲載しております。(敬称略)



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

茨城県支部

日赤茨城

2017.8

特別号

Red Cross Ibaraki

決算
報告



人間を救うのは、人間だ。

茨城県支部の事業推進につきましては、県民の皆さまのご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。日本赤十字社は、平成28年4月の「熊本地震災害」に対し全社を挙げて被災者の救援にあたりました。また、災害に備え、各種災害救護訓練を実施したほか、救急法等の普及をはじめ、地域住民や児童・生徒を対象とした防災教育事業などにも注力しました。

日本赤十字社の災害救護をはじめとする各種事業は、国や県の補助に頼ることなく、皆さまからの尊い寄付を活動財源としています。

今後とも、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、赤十字事業の充実に努めてまいりますので、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



災害救護活動

熊本地震災害における救護活動

日本赤十字社は、災害発生直後から医療チームを派遣し、刻々と変化する状況に合わせて、こころのケアや避難所での健康支援を展開するなど、全社を挙げて被災者の支援を行いました。

当支部からも、延べ36人の救護要員を派遣し、1,200点の救援物資を送付しました。



西原村の日赤仮設診療所での治療



益城町役場でのこころのケア活動

熊本地震 数字で見る日本赤十字社の活動

	207班 約1,600人 派遣救護班数と人数		654セット 緊急セット配布数
	約5,000人 診療傷病者数		22,480枚 毛布配布数
	約300人 医師・看護師ら支援要員派遣数		11,230枚 ブルーシート配布数
	149人 こころのケアチーム派遣人数		7,551セット 安眠セット配布数

被災者の声

坂井謙二さん・寛美さん ご夫妻
(熊本県益城町)

「避難所で毛布や医療関係の支援をさせていただいて助かりました。」(寛美さん)

「自分はすぐに風邪をひくんですが、咳が出ると周囲に迷惑をかけるじゃないですか。日赤さんに薬をもらえてほっとしました。」(謙二さん)



坂本智美さん・夢佳ちゃん(1歳)
(熊本県西原村) 親子

「1回目の地震の時からミルクを飲まなくなりました。朝まで寝る子だったのが夜泣きをするようになり、避難所では周りの方に気をを使うので、とても困りました。そんな時に、日赤の専門スタッフの方に相談できて助かりました。」



救援物資の配布

大規模災害に備え、当支部及び市町村(地区・分区)などに毛布や緊急セットなどの救援物資を備蓄するとともに、住家の火災などで被災された方に市町村を通して救援物資を配布しています。



緊急セット(携帯ラジオ、懐中電灯など)

品目	配布数	品目	配布数
毛布(※)	591枚	ブルーシート(※)	734枚
緊急セット	109組	布団セット	128組
タオルケット	94枚	保温マット	57枚

※熊本地震災害における配布数量を含む。(毛布500枚、ブルーシート700枚)

赤十字救急法などの普及

事故を防止し急病やけがに対する手当の方法や、健康で安全な生活を営むための知識や技術の普及に努めました。

また、県内各地で実施されたイベント会場に体験コーナーを設け、多くの県民の皆さまに赤十字にふれていただきました。

種別	回数	受講者数
救急法	410回	19,339人
水上安全法	45回	1,172人
雪上安全法	2回	8人
健康生活支援講習	41回	1,823人
幼児安全法	56回	1,315人
合計	554回	23,657人



救急法講習



水上安全法講習

赤十字ボランティアの活動

赤十字ボランティアは、平時には、救急法などの普及、病院や乳児院での奉仕活動、献血推進活動、地域のニーズに応じた社会福祉活動など、地域に根差した幅広い活動を行っており、災害時には県内各地で非常食炊き出しや被災者の支援などを行います。

また、熊本地震や鳥取県中部地震などの際には、義援金募集活動などの被災者支援を行いました。

【赤十字ボランティア登録状況】

種別	団数	人数
地域奉仕団	42団	8,574人
特殊奉仕団	11団	872人
青年奉仕団	3団	123人
防災ボランティアリーダー	—	6人
防災ボランティア・地区リーダー	—	41人



商業施設での全国学生クリスマス献血キャンペーン

青少年赤十字の活動

県内の小中高等学校等351校、約65,000人の児童・生徒が青少年赤十字の精神に基づき、ボランティアや国際活動に取り組んでいます。

防災教育プログラムの普及に努めるため、多くの学校で本プログラムを用いた授業が行われ、児童・生徒の防災意識が高まりました。



児童・生徒が青少年赤十字防災プログラムを实践



日本の児童と交流するパキスタンのメンバー

また、国際交流事業として、パキスタン・イスラム共和国から2人を受入れ、高校での1日体験やホームステイなどのプログラムを通じ、日本の学生生活や文化に触れました。